

(6) キャリア・カウンセリングの流れの例

ア プロセス

(ア) 問題の把握

- 児童生徒の現状を把握する。その際、児童生徒がもっている進路への意識、取組の状況を念頭に入れる。
- 児童生徒の進路発達段階を知るために、進路適性検査やクレベリン検査なども用いる。
- これまでの記録や他の教職員、保護者などからの客観的情報も資料として用いる。

(イ) 援助計画

- 到達目標を設定し、目標実現に向けたステップを組み立て、児童生徒とのかかわりをつづかなものにする。
- 到達目標の設定に当たっては、進路発達の指標（45 ページ、表2）を参考にする。
- 児童生徒自身が問題の解決に当たることを確認した上で、教職員がどの部分で支援できるかを協議し、援助の計画を立てる。
- 児童生徒に積極的な学習や自己管理を課題として提示し、課題への目標及び計画を作成する援助を行う。

(ウ) 評価

- 方策とカウンセリング全体を整理するとともに、どのように感じたかを評価して相談を終了する。
- 相談の記録を整理し、成果と課題を確認する。

イ カウンセリングの基礎的技能

(ア) 話の速度と方向

話す速度を児童生徒に合わせる、相手の話の方向性を読みとるなど、児童生徒が話しやすい雰囲気をつくる。

(イ) 表情や声の調子

表情や声の調子が加わると、言葉のみの場合と比べ、伝達力が大幅に増すとされている。表情や声の調子に抑揚をつけた話し方を心掛ける。

(ウ) 児童生徒への「感・学・気」

相談に来ている児童生徒に対して、「どのように感じているのか」、「どのようなことを学んでいるのか」、「どのようなことに気付いているのか」などを確認しながら会話を進める。

(エ) うなずき

うなずきは児童生徒の話や思いを受容的、共感的に受け止めることになり、児童生徒に安心感を与える。肯定的な内容に対するうなずきは効果的であるが、否定的な内容に対するうなずきは逆効果になることもあるので気を付ける。

(オ) 理解不能な心情への対応

理解不能な心情、解決不可能な問題に対しては安易な同意はせず、問題の解決を志向する方向で受け答えをする。

(カ) 身体感覚に訴えた問い掛け

「どんな感じだった」等、児童生徒の感覚に訴えた問い掛けをすると、相談の糸口が見つかる場合がある。

(7) キャリア・カウンセリングの考えを生かした相談活動の展開例

ア 学級集団（小学校）における展開例

以下は、第6学年を対象に、児童の自己理解、職業理解を促すために構成的グループエンカウンター⁽¹⁾を用いた学級活動の指導案である。

(ア) 題材名 「将来の夢や職業について考えよう」

(イ) 本時の目標

自分の将来の夢や、現在関心をもっている職業をテーマに話し合うことで、自分自身についての理解を深め、これから努力すべきことについて考えることができるようにする。

また、グループ活動を通して、職業についての考えを広げることができるようにする。

(ウ) 実際

□は自己理解を促すための支援の観点

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入 (インストラクション)	1 ショートエクササイズ「あいこジャンケン」をする。 2 将来の夢や職業アンケート調査の結果を基に話し合う。 ・ いろいろな職業がある。 ・ 自分と違った夢や職業を考えている人がいる。 3 学習のめあてを確認する。 将来の夢や職業について考え、自分や友達について理解を深めよう。 4 学習の進め方を確認する。 インストラクション(2)→エクササイズ(3)→シェアリング(4)→まとめ	10分	・ 「あいこジャンケン」をさせることで、相手のことを考えようとする態度と学習に対する意欲を喚起する。 ・ 事前に行った調査の結果を示し、気付いたことを自由に発表させる。 ・ 実現できそうにないものがあったり、笑ったり、冷やかしたりさせない。 ・ 小黒板にめあてを板書して掲示し、確認させる。 ・ 小黒板に学習の進め方を掲示し、見通しをもって学習できるようにする。 ・ インストラクションとしてワークシートを基に具体的な記入方法、グループ活動の進め方などを丁寧に説明する。
展開 (エクササイズ)(シェアリング)	5 自分の将来の夢や就きたい職業を書く。 6 グループをつくり、一人一人の将来の夢や職業について考える。 (1) 質問を受ける順番を決める。 (2) 質問を受ける人は、質問と自分の答えをワークシートに記入しながら答える。 (3) 質問は、1人1回1問ずつ全員が質問し終わったら、これを3回繰り返す。 (4) 質問への回答を参考にして、グループのメンバーが夢や職業を当てる。 7 ワークシートを見ながら、活動を振り返って感想を話し合う。 ・ 予想しない質問があって、答えにくかった。 ・ どんなことを質問すればいいか、分からなかった。 ・ みんなすてきな夢や職業を考えていて、すごいと思った。 ・ 自分が就きたいと思っている職業でも、知らないことが多かった。 8 グループでの感想等を発表する。	30分	・ ワークシートに自分の将来の夢や就きたい職業を書かせる。 欲求と動機 興味・関心 ・ 夢は、職業に関することに限定する。 ・ 事前のアンケートを参考にして、グループ編成を工夫する。 ・ 質問のルールとして次のことを守らせる。 職業名を直接聞く質問はしない。 質問することが思い付かない場合は、次の人にパスをしていい。 回答内容は、詳しく説明ができない場合は「はい、いいえ」だけでもよい。 など ・ シェアリングで出てくる自己に関する新たな気付きは、小さいことでも大事にさせる。 能力・特性 ・ 現段階での将来の夢や就きたい職業を選択している理由についても話し合わせる。 価値観 役割・責任・期待 ・ 各グループの話し合いの様子を見ながら、話し合いがうまくいっていないグループには、楽しかったこと、初めて知ったことなどから話し合うように助言する。 ・ 二つ又は三つのグループの話し合いの様子を発表させ、学級全体でのシェアリングを深める。
終末 (まとめ)	9 教師の話を聞く。 10 次時の学級活動の内容について説明を聞く。 ・ 「計画的な学習の進め方」をテーマに、自分の将来の夢や就きたい職業に近づくための具体的な努力方法について考えることを確認する。 11 学習のまとめと自己評価をする。	5分	・ 将来の夢や職業について考えることは、今の自分を考えることにつながっていることを説明する。 ・ 将来の夢や職業が漠然としていても、これからじっくりと自分のよさや興味・関心のあることを見付け、希望をもって学習していくことが大事であることを説明する。 行動計画 ・ ワークシートに学習全体の感想をまとめる。

- (1) 構成的グループエンカウンター...参加者の自己発見を促すため、一定の枠組み(話し合いの話題、グループのサイズや構成員、話題、エクササイズの内容、順番、時間配分など)を与えて、その範囲内で心と心のふれ合い(エンカウンター)を行うこと。参加者が自分を表現しやすい、参加者の心的外傷を予防しやすい、時間内に完結しやすい、プロのカウンセラーでなくても実施しやすいなどの利点がある。
- (2) インストラクション...構成的グループ・エンカウンターなどでリーダーがエクササイズの説明や実演をすること。
- (3) エクササイズ...構成的グループ・エンカウンターにおいて、自己開示をはじめとする何らかの対人行動を誘発する課題。シェアリングとは補充関係にある。
- (4) シェアリング...集団体験における思いや感情をメンバー間で分かち合うこと。構成的グループ・エンカウンター等においては、活動の最後に行われることが多い。

(I) 評価

- a 自分の将来の夢や、現在関心をもっている職業をテーマにしたグループ活動に、積極的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度)
- b 学習の進め方にしたがってグループ活動に取り組むことができたか。(技能・表現)
- c 自分自身についての理解や、これから努力すべきことについて考えることができたか。(知識・理解)

イ 個別進路相談(中学校, 高等学校, 盲・聾・養護学校)の展開例

個別進路相談では、進路に関する課題の発見からその明確化、課題の解決に至るまで、様々な機会をとらえて相談につなげ、児童生徒が主体的に課題を解決することができるように支援することが必要である。

例1：教師の一方的な意見や考えによる相談例(高等学校)

先生：進路のことはどう考えてる？

生徒：まだはっきりしません。〇〇系の学校と 系の学校のどちらへ行くか迷っています。

先生：迷っている暇なんかない。早くどちらか決めて勉強を頑張らないと。今の成績ではどちらの学校も厳しいと思う。

生徒：はい・・・。

先生：先生が生徒のころは、志望校は入学当初から決めていた。迷っていないで、どっちか早く決めてしまいなさい。

生徒：・・・。

応答が指示的で、生徒自身の主体的な考えを導こうとしていない。

教師の経験を基に生徒を誘導している。欲求や関心など、生徒の自己理解を促す配慮が足りない。

例2：生徒の思いを受容的、共感的に受け止めた相談例(中学校) 〓：自己理解を促すポイント

先生：進路のことはどう考えてる？

生徒：まだはっきりしません。〇〇系の学校と 系の学校のどちらへ行くか迷っています。

先生：そうか、迷ってるんだね・・・。

先生：将来は、どんな職業に就こうと思っているの？

生徒：・・・。

先生：小学校のころは、何になりたいと思っていたの？

生徒：小学校の時は、消防士になりたいと思っていました。

先生：消防士か、すごいな。どうして消防士になりたいと思ったの。

生徒：人の命を守るため、懸命に消火活動や救助活動をする姿を見て自分も人の役に立つ仕事をしたいと思いました。

先生：君は責任感もあるし、友達からの信頼も厚いよね。消防士のような仕事は君に合ってると思うな。将来の自分の仕事も考えながら自分を生かせる進路について考えるといいよ。先生も資料を調べてみるから、君も一緒に調べないか。それから志望校を考えよう。

生徒：はい。

迷っていることに対して、否定的にかかわるのではなく、受容的に認めることで生徒に安心感を与える。受容的な受け止め

小学校時代の夢を聞くことで、生徒自身の欲求や興味・関心を意識させる。欲求と動機 興味・関心

生徒の話から、働くことの価値をどこに見い出しているか聞き出している。価値観

他者からの客観的な評価、共感的な理解により、信頼感が生まれ、生徒自身も安心して自己特性等を見つめられるようになる。能力・特性

一緒に調べようという問い掛けにより、生徒の意欲や積極性を引き出そうとしている。その際は、職業には多様な側面があることにも気付かせるようにする。行動計画

小、中、高等学校のそれぞれの学校段階における生き方(在り方)指導としてのキャリア・カウンセリングが充実したものとなるためには、その必要性・重要性を認識するとともに、個の発達を支援する教職員のきめ細かなかわりが必要になる。そのためにも、キャリア教育に関する研修を校内研修等に計画的に位置付けるとともに、保護者と連携した支援の一層の充実が望まれる。

5 キャリア教育の推進体制

キャリア教育を効果的に推進していくためには、キャリア教育の趣旨を十分理解するとともに、全教職員がそれぞれの役割を適切に果たしていけるような体制づくりが大切である。

(1) 担当者や委員会の設置

キャリア教育を円滑に推進する観点からは、学校全体の連絡・調整を行う担当者や委員会を置くことが考えられる。中学校、高等学校ではこれまでも進路指導主任等が置かれているが、キャリア教育が進路指導を含む全教育活動の中で推進されることを踏まえると、進路指導の業務に加え、教育課程の進行管理や学校内外の関係者との連絡・調整を包括的に行うことが求められる。学校種や学校規模に応じて、独立した担当を置く、委員会を設置するなどの工夫をすることにより、教育活動を機能的に推進することができる。

(2) 全体計画、年間指導計画の進行管理と不断の見直し

ア 適切な進行管理（体験活動や定期教育相談を中心に）

各教科、領域等の授業は全体計画の趣旨や年間指導計画に添って適切に展開されうるか、特に、核になる教育活動の授業については目標が十分に達成される学習活動が展開できるかという視点で、事前の検討や連絡・調整を充実させる必要がある。

教育相談は、児童生徒のなりたい自分との出会いの状況や、児童生徒がなりたい自分に向けてどの程度努力できているか、などを把握する教育活動であり、キャリア・カウンセリングを進めるきっかけでもある。そこで、児童生徒理解をより深めるため、定期的な相談活動の確実な実施だけでなく、具体的な手だての提供や児童生徒の個別情報の円滑な交流を進めることなども必要になる。

イ 実践結果に基づく計画の見直し

教育活動の改善策は、実施しなければ明らかにならないものもある。特に、当該年度の実施直後は教育活動の成果や課題だけでなく、実施中の配慮事項などの記憶が鮮明なため、翌年度に向けた具体的な改善策をまとめる好機である。現在使用している指導計画に朱書きするなどして、翌年度の計画立案の参考となる情報をできるだけ多く残すことが必要である。

(3) 校内研修充実の工夫

ア 各教科、領域等の指導力向上

各教科、領域等においては、まずは本来のねらいを達成することが求められる。その意味からは、これまでと同じように、各教科、領域等の指導法改善を進める。また、総合的な学習の時間等における体験活動においては、ねらいと体験内容や体験場所、外部講師への依頼内容などについて吟味したり、事前・事後の指導内容や指導体制を検討したりして、その一層の充実を図る。

イ カウンセリングの考え方の深化と技能の向上

カウンセリングの考え方や技能は、キャリア教育に限らず、あらゆる教育活動に携わる者にとって不可欠な資質である。

カウンセリングの基本的な考え方に対する理解と認識を深める講義、カウンセリングの具体

的な技能を習得する演習，具体的な事例に基づく事例研究などを効果的に組み合わせながら研修を進める。

ウ 系統的，継続的な研修の推進

学年や学期初めの時期，体験活動の実施時期，進路を決定する時期，児童生徒が不安定になりやすい時期など，ポイントとなる時期を見据えながら，各教科，領域の指導力に関する研修やカウンセリングに関する研修を体系的に計画し，継続的に資質向上を図る。

エ 全員参画型の研修の推進

キャリア教育は，なりたい自分を見付ける場面やなりたい自分を実現するために努力する場面などを設定することを通して，すべての教育活動の中で推進するものである。学級担任，教科担任など，児童生徒とかかわるすべての教職員がキャリア教育の推進役になる。一人一人の教職員には，担当する教科や領域の特色を生かして主体的にキャリア教育を展開する，あるいは，担当する教育活動をキャリア教育の全体計画に基づいて見直すことなどが求められる。

(4) 教職員相互，他校種，地域社会や保護者との意思疎通の促進

ア 教職員相互の人間関係づくりと意思疎通の活性化

児童生徒の個別の情報は，その児童生徒にかかわるすべての教職員が共有して初めて大きな価値を生み出す。

児童生徒の健全な発達を促すという共通の目的の下，個人情報の保護に配慮しながら，教職員相互が気軽に意思疎通が図れるよう，職員室の環境づくりや人間関係づくりを進めたい。

イ 他校種，地域社会や保護者への積極的な情報発信と意思疎通の場の活用

学校間の連絡会や学校が発行する各種便り，地域社会における各種会合での説明など公的な場面での情報発信だけでなく，日常における交流など非公式な場面も生かしながら，児童生徒の状況を他校種や地域社会，保護者へ積極的に発信するようにする。あわせて，児童生徒の状況を話題にしながら，他校種や地域住民，保護者との意思疎通をより多くの場面で積極的に推進する。

児童生徒にとっては，身の回りの大人からの声掛けこそがなりたい自分を見付け，なりたい自分に向けて努力するきっかけとしてきわめて有効なものとなる。